事例No.	2616
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	日本大通り活性化委員会

事例区分	地域活性化

タグ	・公共施設活用 ・関係人口 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

日本大通り活性化委員会

出典

平成28年度ふるさとづくり大賞事例集

氷川台自治会　　東京都東久留米市

概　　要

氷川台地域では転居に伴う空き家・空き地が増えており、災害時における被害の拡大や、犯罪の温床となることが懸念されていた。それに対して、空き家・空き地を地域の資源として捉え、空き家の庭を農園として管理し、野菜の直売所としても利用するだけでなく、様々なイベントに利用している。その結果、空き家がもたらす悪影響を未然に防ぐだけでなく、“ふれあいの場”として地域を活性化している。





評価された点

・都市部の過疎化が進む中で、空き家・空き地の利活用を推進する自治会の活動は評価でき、他の地域のお手本となる好事例。住民の防災意識向上に繋がっているのも高評価。
・行政の手を借りずに地域の住民が主体となって空き家を「地域の資源」として農園やイベント会場などに有効活用しており、素晴らしい。自治会の活発な活動の成果によって地域の住環境が改善されるだけではなく、自治会加入率の上昇、高齢化率の減少等にもつながっており、全国の住民自治の模範となる取組みだ。
・一人の1,000歩よりも1,000人の１歩の方が大事と言われる。多くの方の協力体制を構築していることは、活動を超えた力になると思う。空き家の農園もGOOD IDEA。

日本大通り活性化委員会　　神奈川県横浜市

概　　要

日本大通りの景観づくりをソフト面からも取り組む組織として、地域の有志により設立。日本大通りの空間の質を高め、市民に愛されるストリートとしていくため、オープンカフェや各種イベントをはじめとした公共空間の利活用を行うとともに、その実施に向けた地域や行政との連携・調整を行っている。また、日本大通りに留まらず、周辺地区とも連携して、横浜全体や市外からも人を呼び込む賑わい景観を創出している。



評価された点

・都市型のエリアマネジメントのモデルケース。ＰＰＰが上手く活用されている事例はまだ少ないので、貴重な事例。
・斬新な取組みを次々に打ちだし、多くの人たちに愛される景観を創り出すことに成功している。基本的な活動は自主財源で運営しており、行政に依存しない独自の取組みで10年継続している点も評価。
・公共空間の利活用、地域の賑わい景観づくりや交流の促進など、地域の活性化に大きく貢献。補助金等に頼らない、「地域の力」でまちづくりが持続されている先進的な事例。
・オープンカフェやウエイターズレース、イルミネーションは海外なども含めて他のところにもあるが、普段の場所を楽しくする工夫を評価。楽しく過ごすことは観光にもつながる。
・ストリートを活用したまちづくりの成功例として評価。
・活動者が増加している。会費収入、事業収入等、実施に向かって多くの障壁を取り除いている。

